

キリストの十字架の祝日

2014.9.14

ヨハネ 3・13-17

今日は主の十字架の崇敬のための祝日です。ミサのたびごとに、わたしたちは聖母とともに主の十字架のもとに留まり、回心を願って、祈りをささげたいと思います。9月14日の今日の祝日は、ローマ皇帝の母親である聖ヘレナがエルサレムで主の十字架の一部を発見したことを記念する祝日です。その前にローマ軍の将軍であったコンスタンティヌスは、ガリヤでの戦争で幻のうちに見た十字架の旗を頼りに戦に立ち向かい勝利を収めることができたのでした。これによって、将軍コンスタンティヌスはローマ帝国の皇帝となり、それまで禁じられていたキリスト教を公認の宗教と認めたのでした。こうしてキリスト教は長い迫害の時代を超えて、ローマ帝国の公認の宗教となり、ヨーロッパ各地にキリスト教が広まってゆく端緒が開かれたのです。このことは、十字架による勝利と信じられるようになり、聖金曜日の主の受難を記念に加えて9月の主の受難の祝日をして祝われるようになったのです。

十字架こそはあらゆる困難に打ちあたって、心萎え、心くずおれるときにも、主の十字架の死に打勝つ復活の恵みによって、信じる者たちを新たな力をもって立ち上がらせる神の恵みの旗印です。コンスタンティヌスに倣ってわたしたちも群がる今の時代の困難に立ち向かってゆきたいと思います。十字架こそがわたしたちの信仰の拠りどころです。

使徒パウロが述べているように、主の十字架こそが、弱さの中に示される神の力です。わたしたちは、その力に強められ、その力を誇りとして生きてゆきたいと思います。このミサの中で、特に大きな困難の中あって傷つき心萎えた人々のために祈りましょう。全てに打ち勝つ力を与える十字架の主が強められて、全ての人々がこの世の人生の勝利者となることができますように。十字架の死を超えて復活された主の過ぎ越しを記念するこのミサを、今日も心を合わせておささげしたいと思います。

明日敬老の日を迎えるにあたり、大きな困難を抱え、見捨てられたような状態の中で生きざるをえない高齢者の方々のために祈りたいと思います。高齢を迎え、さまざまな障害を経験せざるを得なくなることは確かに大きな苦痛ですが、高齢期を迎えることにはそれなりの意味があると思われまます。十字架は苦しみだけをもたらすものではありません。十字架は苦しみの中に意味を見出す機会を与えます。苦しみによって打ち砕かれたものだけが、他者の苦しみに対す

る真の共感をもたらします。主の十字架は、他者の苦しみに自分を余すところなく明け渡すことでもありました。ここに福音があります。他者への愛によって苦しみをともに担い合うことによって、新たな世界が開かれてゆきます。愛と痛みへの共感によって開かれる心の連帯の世界にともに生きることができるよう祈りましょう。聖母とともに世の全ての苦しみを背負って御子の十字架のもとに留まり続けましょう。主の復活への希望が、出口の見えない闇に覆われたこの世に光をもたらしますように。その光を目指して主の十字架の御後に従ってともに歩み続けることを誓って、今日のミサをおささげしたいと思いません。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高